

**国立大学における共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の  
第4期中期目標期間における中間評価結果**

令和6年10月31日

**1. 評価区分ごとの中間評価結果(総括表)**

評価区分 (中間評価結果)		計/専門 委員会等 名	理工学系 (大型設 備利用 型)	理工学系 (共同研 究型)	医学・生 物学系 (医学系)	医学・生 物学系 (生物学 系)	人文・社 会科学系	異分野融 合系
S	拠点としての活動が活発に行われており、共同利用・共同研究を通じて特筆すべき成果や効果が見られ、関連コミュニティへの貢献も多大であったと判断される。	16	4 (内、国際 拠点が <sup>1</sup> )	3 (内、国際 拠点が <sup>1</sup> )	6 (内、国際 拠点が <sup>1</sup> )	2	1	0
A	拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティへの貢献もあり、今後も、共同利用・共同研究拠点を通じた成果や効果が期待される。	47	6 (内、国際 拠点が <sup>1</sup> )	14 (内、国際 拠点が <sup>2</sup> )	8	8	6	5
A-	拠点としての活動は概ね順調に行われているが、作業部会からの助言や関連コミュニティからの意見等を踏まえた適切な取組が期待される。	15	4	6	4	1	0	0
B	拠点としての活動は行われているものの拠点の規模等と比較して低調であり、作業部会からの助言や関連コミュニティからの意見等を踏まえた適切な取組が必要と判断される。	0	0	0	0	0	0	0
C	拠点としての活動が十分とは言えず、認定の基準に適合していない状況にあると判断される。	0	0	0	0	0	0	0
計		78	14	23	18	11	7	5

## 2. 評価対象拠点及び各専門委員会等における評価区分(中間評価結果)一覧

※拠点ネットワーク型における中核施設には「○」を記載。

※国際共同利用・共同研究拠点の中間評価には備考に「国際拠点」と記載。

### ✓理工学系(大型設備利用型)

(中間評価: 共共12拠点、国際2拠点、計14拠点)

整理番号	大学等名	研究施設名 (中間評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)	ページ番号	備考
1	東北大学	- 電子光物理学研究センター	電子光物理学研究拠点	A-	6	
2	筑波大学	- 計算科学研究センター	先端学際計算科学共同研究拠点	A	7	
3	東京大学	- 素粒子物理国際研究センター	最高エネルギー素粒子物理学研究拠点	S	8	
4	東京大学	- 物性研究所	物性科学研究拠点	S	9	
5	京都大学	- 複合原子力科学研究所	複合原子力科学拠点	A	10	
6	京都大学	- 生存圏研究所	生存圏科学の共同利用・共同研究拠点	A	11	
7	大阪大学	- レーザー科学研究所	高エネルギー密度科学先端研究拠点	S	12	
8	広島大学	- 放射光科学研究センター	放射光物質物理学研究拠点	A-	13	
9	高知大学	- 海洋コア国際研究所	地球掘削科学国際研究拠点	A-	14	
10	九州大学	- 応用力学研究所	応用力学共同研究拠点	A	15	
11	佐賀大学	- 海洋エネルギー研究所	海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点	A-	16	
12	東京大学	○ 情報基盤センター【中核施設】	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点	A	17	
	北海道大学	情報基盤センター				
	東北大学	サイバーサイエンスセンター				
	東京科学大学	情報基盤センター				
	名古屋大学	情報基盤センター				
	京都大学	学術情報メディアセンター				
	大阪大学	サイバーメディアセンター				
	九州大学	情報基盤研究開発センター				
13	東北大学	- 金属材料研究所	材料科学国際共同利用・共同研究拠点	S	18	国際拠点
14	東京大学	- 宇宙線研究所	宇宙線国際研究拠点	A	19	国際拠点

### ✓理工学系(共同研究型)

(中間評価: 共共20拠点、国際3拠点、計23拠点)

整理番号	大学等名	研究施設名 (中間評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)	ページ番号	備考
15	北海道大学	- 低温科学研究所	低温科学研究拠点	A	20	
16	東北大学	- 電気通信研究所	情報通信共同研究拠点	A	21	
17	東北大学	- 流体科学研究所	流体科学国際研究教育拠点	A	22	
18	千葉大学	- 環境リモートセンシング研究センター	環境リモートセンシング研究拠点	A	23	
19	東京大学	- 空間情報科学研究センター	空間情報科学研究拠点	A	24	
20	東京大学	- 地震研究所	地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点	A	25	
21	東京科学大学	- 総合研究院フロンティア材料研究所	先端無機材料共同研究拠点	A	26	
22	金沢大学	- 環日本海域環境研究センター	越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点	A	27	
23	名古屋大学	- 宇宙地球環境研究所	宇宙地球環境研究拠点	S	28	

整理番号	大学等名	研究施設名 (中間評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)	ページ 番号	備考
24	名古屋大学	- 未来材料・システム研究所	環境調和型で持続発展可能な省エネルギー・創エネルギーのための材料とシステム研究拠点	A-	29	
25	京都大学	- エネルギー理工学研究所	ゼロエミッションエネルギー研究拠点	A	30	
26	京都大学	- 基礎物理学研究所	理論物理学研究拠点	S	31	
27	京都大学	- 防災研究所	自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点	A-	32	
28	大阪大学	- 接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点	A	33	
29	岡山大学	- 惑星物質研究所	惑星物質科学研究拠点	A-	34	
30	愛媛大学	- 地球深部ダイナミクス研究センター	先進超高压科学研究拠点	A	35	
31	九州大学	- マス・フォア・インダストリ研究所	産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点	A-	36	
32	熊本大学・富山大学	- 先進軽金属材料国際研究機構	軽金属材料共同研究拠点	A-	37	
33	大阪大学	○ 産業科学研究所【中核施設】	物質・デバイス領域共同研究拠点	A	38	
	北海道大学	電子科学研究所				
	東北大学	多元物質科学研究所				
	東京科学大学	総合研究院化学生命科学研究所				
	九州大学	先端物質化学研究所				
34	北海道大学	○ 触媒科学研究所【中核施設】	触媒科学計測共同研究拠点	A-	39	
	大阪公立大学	人工光合成研究センター				
	産業技術総合研究所	触媒化学融合研究センター【連携施設】				
35	京都大学	- 数理解析研究所	数学・数理学の国際共同研究拠点	S	40	国際拠点
36	京都大学	- 化学研究所	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際グローバル研究拠点	A	41	国際拠点
37	大阪大学	- 核物理研究センター	国際サブアトム科学研究拠点	A	42	国際拠点

## ✓医学・生物学系(医学系)

(中間評価: 共共17拠点、国際1拠点、計18拠点)

整理番号	大学等名	研究施設名 (中間評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)	ページ 番号	備考
38	北海道大学	- 遺伝子病制御研究所	細菌やウイルスの持続性感染により発生する感染症の先端的研究拠点	A	43	
39	北海道大学	- 人獣共通感染症国際共同研究所	人獣共通感染症研究拠点	A	44	
40	東北大学	- 加齢医学研究所	加齢医学研究拠点	S	45	
41	群馬大学	- 生体調節研究所	内分泌・代謝学共同研究拠点	A	46	
42	千葉大学	- 真菌医学研究センター	真菌感染症研究拠点	A-	47	
43	東京科学大学	- 総合研究院難治疾患研究所	難治疾患共同研究拠点	S	48	
44	新潟大学	- 脳研究所	病理リソースを活用した脳神経病態共同研究拠点	A	49	
45	金沢大学	- がん進展制御研究所	がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点	A	50	
46	京都大学	- 医生物学研究所	ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点	A	51	
47	大阪大学	- 微生物病研究所	微生物病共同研究拠点	S	52	
48	徳島大学	- 先端酵素学研究所	酵素学研究拠点	A	53	
49	愛媛大学	- プロテオサイエンスセンター	プロテオインタクトーム解析共同研究拠点	A-	54	
50	九州大学	- 生体防御医学研究所	多階層生体防御システム研究拠点	S	55	
51	長崎大学	- 高度感染症研究センター	新興感染症制御研究拠点	A-	56	
52	長崎大学	- 熱帯医学研究所	熱帯医学研究拠点	A	57	

整理番号	大学等名	研究施設名 (中間評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)	ページ 番号	備考
53	熊本大学	- 発生医学研究所	発生医学の共同研究拠点	S	58	
54	広島大学	○ 原爆放射線医科学研究所【中核施設】	放射線災害・医科学研究拠点	A-	59	
	長崎大学	原爆後障害医療研究所				
	福島県立医科大学	ふくしま国際医療科学センター				
55	東京大学	- 医科学研究所	基礎・応用医学の推進と先端医療の実現を 目指した医科学国際共同研究拠点	S	60	国際拠点

## ✓医学・生物学系(生物学系)

(中間評価: 共11拠点、計11拠点)

整理番号	大学等名	研究施設名 (中間評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)	ページ 番号	備考
56	帯広畜産大学	- 原虫病研究センター	原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点	A	61	
57	筑波大学	- つくば機能植物イノベーション研究センター	形質転換植物デザイン研究拠点	A	62	
58	東京大学	- 大気海洋研究所	大気海洋研究拠点	S	63	
59	京都大学	- 生態学研究センター	生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・ 共同研究拠点	A-	64	
60	京都大学	- 野生動物研究センター	絶滅の危機に瀕する野生動物(大型哺乳類 等)の保全に関する研究拠点	A	65	
61	大阪大学	- 蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点	S	66	
62	鳥取大学	- 乾燥地研究センター	乾燥地科学拠点	A	67	
63	岡山大学	- 資源植物科学研究所	植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点	A	68	
64	愛媛大学	- 沿岸環境科学研究センター	化学汚染・沿岸環境研究拠点	A	69	
65	琉球大学	- 熱帯生物圏研究センター	熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同 研究拠点	A	70	
66	名古屋大学・岐阜大学	○ 糖鎖生命コア研究所【中核施設】	糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点	A	71	
	創価大学	糖鎖生命システム融合研究所				
	自然科学研究機構	生命創成探究センター【連携施設】				

## ✓人文・社会科学系

(中間評価: 共7拠点、計7拠点)

整理番号	大学等名	研究施設名 (中間評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)	ページ 番号	備考
67	北海道大学	- スラブ・ユーラシア研究センター	スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点	A	72	
68	東京大学	- 史料編纂所	日本史史料の研究資源化に関する研究拠点	S	73	
69	東京外国語大学	- アジア・アフリカ言語文化研究所	アジア・アフリカの言語文化に関する国際的 研究拠点	A	74	
70	一橋大学	- 経済研究所	「日本および世界経済の高度実証分析」拠点	A	75	
71	京都大学	- 経済研究所	先端経済理論の国際的共同研究拠点	A	76	
72	京都大学	- 人文科学研究所	人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点	A	77	
73	大阪大学	- 社会経済研究所	行動経済学研究拠点	A	78	

✓異分野融合系

(中間評価: 共共5拠点、計5拠点)

整理番号	大学等名	研究施設名 (中間評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (中間評価結果)	ページ 番号	備考
74	筑波大学	- ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター	人の活力・健康を増進するヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究拠点	A	79	
75	名古屋大学	- 低温プラズマ科学研究センター	低温プラズマ科学研究拠点	A	80	
76	京都大学	- 東南アジア地域研究研究所	グローバル共生に向けた東南アジア地域研究の国際共同研究拠点	A	81	
77	東京科学大学	○ 総合研究院生体材料工学研究所【中核施設】	生体医歯工学共同研究拠点	A	82	
	東京科学大学	総合研究院未来産業技術研究所				
	静岡大学	電子工学研究所				
	広島大学	半導体産業技術研究所				
78	筑波大学	○ 放射線・アイソトープ地球システム研究センター【中核施設】	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点	A	83	
	弘前大学	被ばく医療総合研究所				
	福島大学	環境放射能研究所				
	日本原子力研究開発機構	廃炉環境国際共同研究センター【連携施設】				
	国立環境研究所	福島地域協働研究拠点【連携施設】				
	環境科学技術研究所	【連携施設】				

### 3. 中間評価結果

通し番号	1
共同利用・共同研究拠点名	電子光理学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(電子光理学研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>高エネルギー電子加速器による特徴ある量子ビームを用いた電子光理学の中核的研究拠点として、2つのセンターを統合し、電子光を用いた原子核物理、放射化学、加速器関連の技術開発や核医学までの幅広い分野での研究展開を図り、利用者の利便性向上の取組により、大学院生の顕著な参画増など、関連コミュニティへの一定の貢献を果たしていることは評価できる。</p> <p>一方で、他の短寿命 RI 関連研究施設とは異なった本拠点の固有の特徴を活かした拠点活動や学外連携ネットワーク構想について、方向性は理解できるものの、未だ構想段階に留まっており、十分進展しているとは言えない。また、期末評価の指摘事項である人材の流動性の向上や女性研究者の雇用増加についても一層の努力が必要である。</p> <p>今後は、人材の流動性の向上を含め女性研究者や外国人研究者の雇用増加に向けた一層の取組を推進するとともに、放射光施設「ナノテラス」との連携など、学内外の関連機関との連携を進め、将来研究計画の具体的な策定と提案を図ることが望まれる。</p>

通し番号	2
共同利用・共同研究拠点名	先端学際計算科学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	筑波大学(計算科学研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>高性能の計算機開発とそれを用いた計算科学の推進を素粒子・宇宙・原子核・物性・生命・気象といった広い分野の研究を学際的に進める中核的研究拠点として、若手研究者などにも使用の門戸を広げるスーパーコンピュータの無償利用制度を実施し、研究成果を挙げる等関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、関連コミュニティの拡大を図るため、国際研究拠点との MOU 締結、短期間～中期間での相手国訪問及び先方からの招聘を促すマンスリーサバティカル制度や中期招聘制度を実施することにより若手研究者の海外経験や研究者間の交流機会を促していることは高く評価できる。</p> <p>一方で、大型の競争的研究費の獲得状況や世界的に評価される高水準の研究成果数、女性教員の採用状況については必ずしも十分とは言えない。</p> <p>今後は、科学諸分野の大型プロジェクトとの連携やトップレベルの国際会議における論文発表を増やすとともに、ダイバーシティ向上に向けた取組の更なる推進が期待される。</p>

通し番号	3
共同利用・共同研究拠点名	最高エネルギー素粒子物理学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(素粒子物理国際研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>素粒子物理学研究の中核である欧州 CERN の大型ハドロン衝突型加速器 LHC を用いた国際共同研究プロジェクト ATLAS 実験を牽引し、国際共同研究において我が国からの参加窓口機能を着実に果たしている。また、物理解析の要となる地域解析センターを運営するなど当該分野における我が国の中核拠点として、各プロジェクトでの突出した成果や論文数・TOP10%比率ともに非常に優れた実績を挙げる等関連コミュニティへの多大なる貢献を果たすとともに、計算分野の強みを活かして産学連携を進めていることは極めて高く評価できる。また、期末評価の際に指摘した事項についても対応しており、AI の活用など計算機科学分野等の異分野との連携や、社会貢献を見据えた機械学習や量子コンピュータ分野での活躍が期待される人材育成のための取組が関連コミュニティの発展にも貢献している。</p> <p>今後は、女性研究者の増加に向け、更に踏み込んだ具体的取組を戦略的に推進することが期待される。</p>

通し番号	4
共同利用・共同研究拠点名	物性科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(物性研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>物性物理学分野における中核的研究拠点として、中性子科学研究施設や超強磁場科学研究施設といった最先端の施設を世界最高レベルで維持・改良し、顕著な研究成果を挙げ続けているとともに、共同利用・共同研究拠点としての受入体制や環境が非常に充実し、それらの卓越した施設等により共同利用・共同研究活動を活発に行うことで関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは極めて高く評価できる。また、期末評価の際に指摘した事項についても対応しており、分野横断の強化に向けた取組についても推進している。</p> <p>今後は、外国人研究者や女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティ向上に向けた取組を更に推進するとともに、我が国全体をリードする研究機関として、海外からの共同利用・共同研究の申請数増加に向けた取組の展開が期待される。</p>

通し番号	5
共同利用・共同研究拠点名	複合原子力科学拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(複合原子力科学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>原子力工学のみならず、材料科学や生命科学、核化学など幅広い分野にわたる学際的な共同研究を展開する中核的研究拠点として、原子炉、核燃料物質を扱える貴重な場を提供している。関連コミュニティの意向を反映した活発な共同研究・共同利用の実施によって得られた中性子捕獲療法や小惑星の元素分析などの国際的に優れた研究成果を数多く発表している。さらに、実習実験による国内外の多くの大学院生教育やテニュアトラックやスタートアップ支援制度の活用による若手研究者育成への貢献、異分野融合に向けた組織改組の取組も関連コミュニティへの貢献として高く評価できる。</p> <p>一方で、共同利用の利便性と安全性の確保の観点から施設の老朽化対策は重要な課題であり、特に KUR 廃炉までの責任を全うすることと、その停止を見込んだ拠点活動の新たな展開の両立については、関連コミュニティ全体で取り組むべき大きな課題である。</p> <p>今後は、これらの課題に引き続き適切に取り組むこと、特に、異分野融合・新分野創出に向けた複合原子力科学を更に発展させていくための具体的な方策についての更なる検討が期待される。</p>

通し番号	6
共同利用・共同研究拠点名	生存圏科学の共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(生存圏研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>生存圏科学の中核的研究拠点として、ユニークな大型装置・実験施設による「設備利用型全国共同利用」、データベース構築と発信を核とする「データベース共同利用」、プロジェクト研究を育成・展開する「プロジェクト型共同研究」の枠組みを推進し、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、分野融合など新たな分野への展開を図っていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、期末評価の指摘事項であった、「設置している 8 つの共同利用・共同研究拠点専門委員会の独立性が高い」点に関して、取組を行い進展は見られるものの、十分改善がなされたとは言えない。</p> <p>今後は、異分野融合研究への研究施設全体での包括的な取組を更に推進することが期待される。</p>

通し番号	7
共同利用・共同研究拠点名	高エネルギー密度科学先端研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(レーザー科学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>「高エネルギー密度科学」を軸にレーザー宇宙物理学、ニュークリアフotonクス、物理インフォマティクス等の新分野を含めた学際的展開を図る中核的研究拠点として、国際競争力のある高性能なレーザー関連装置を国内外の関連コミュニティへ提供するなど積極的に国際化を推進するとともに、拠点の核となる大型設備の整備費用を産業界から支援を受けるなど工夫を講じるとともに、将来計画を文部科学省ロードマップ 2023 の採択に結びつけるなど、関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、期末評価の際の指摘事項として対応を行ったマトリクス共創推進センターを十分に機能させ、文理融合研究による成果の創出を図るとともに、女性教員の登用の推進等ダイバーシティ向上に向けた更なる推進が期待される。</p>

通し番号	8
共同利用・共同研究拠点名	放射光物質物理学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	広島大学(放射光科学研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>放射光物質物理学分野における中核的研究拠点として、大学からの厚い支援の下、特徴ある放射光の性能向上等に着実に努め、多くの優れた研究成果を創出し、関連コミュニティへの一定の貢献を果たすとともに、海外からも多くの共同利用申請を受ける等国際ネットワークの拡大にも積極的に取り組んでいることは評価ができる。</p> <p>一方で、期末評価における指摘事項への対応について、学外利用への展開を図ることについてはやや改善が見られるものの、その他の事項については更なる努力が必要である。</p> <p>今後は、学外利用へ展開する取組や科研費等の外部資金の獲得の取組、特に金額・採択数の点で、更に強化を図るとともに、施設が主体となった質の高い論文発表数の増加に向けた改善のための取組を推進することが望まれる。また、若手研究者への支援及び女性研究者の育成及び受け入れにも積極的に取組を推進することにより、共同利用・共同研究拠点としての活動を活発にすることが望まれる。</p>

通し番号	9
共同利用・共同研究拠点名	地球掘削科学国際研究拠点
大学等名 (研究施設名)	高知大学(海洋コア国際研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>地球掘削科学に関する中核的研究拠点として、コア解析のための世界トップクラスの大型磁気シールド実験室や、価値の高い試料を保管するための学術レポジトリを有し、国際深海科学掘削計画(IODP)に関する共同研究や、人材育成にも活用できるレポジトリコア再解析プログラム(ReCoRD)の実施など特色ある取組を行い、関連コミュニティへの一定の貢献を果たしていることは評価ができる。</p> <p>一方で、期末評価における指摘事項への対応について、学術動向を拠点の運営方針に還元する仕組みの構築に関してはやや改善が見られるものの、国際化の強化に向けた取組や留学生等の受入れについて十分改善されたとは言えない。</p> <p>今後は、関連コミュニティからの意見を踏まえつつ JAMSTEC 以外にも外部との研究交流などを活発に図るとともに、若手研究者、大学院生や留学生等当該分野の次世代人材育成を着実に進め、外国人研究者の積極的な参画等ダイバーシティ向上に向けた取組を行うことによる関連コミュニティの拡大に向けた取組を行い、共同利用・共同研究拠点としての活動を活発にすることが望まれる。</p>

通し番号	10
共同利用・共同研究拠点名	応用力学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	九州大学(応用力学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>エネルギーと環境の課題に対して新エネルギー・核融合・地球環境研究の 3 つの学術基盤から貢献する中核的研究拠点として、共同利用・共同研究課題の応募・採択件数や TOP10%論文数が多く、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、外国人研究者の増加や若手研究者支援にも積極的に取り組むなどダイバーシティの向上に向けた取組を推進していることは高く評価できる。</p> <p>一方で、一部施設・設備において学内利用が突出している状況があり、共同利用・共同研究拠点としての受入体制が十分であるとは言えない。</p> <p>今後は、学外からアクセスしやすい環境の整備や拠点の運営体制においてもダイバーシティ向上を図る等共同利用・共同研究体制の見直しを図ることが期待される。</p>

通し番号	11
共同利用・共同研究拠点名	海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	佐賀大学(海洋エネルギー研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>我が国唯一の海洋エネルギーに関する中核的研究拠点として、大学からの厚い支援の下、国際エネルギー機関(IEA)や国際電気標準会議(IEC)等に日本を代表して参画し、関連コミュニティの発展に貢献するとともに、地域が推進する海洋エネルギーの社会実装や企業等との連携の下で実用化を目指した研究を展開するなど、基盤研究・実証研究を含む戦略的な研究を推進し、関連コミュニティに対する一定の貢献を果たしていることは評価ができる。</p> <p>一方で、研究成果を創出している研究者が限定的であり、期末評価における指摘事項への対応についても、一部事項についてやや改善は見られるものの、更なる努力が必要である。</p> <p>今後は、次世代人材育成の観点からも若手研究者の人材の育成や学外利用の拡大に向けた取組を着実に進めるとともに、女性研究者の積極的な登用等ダイバーシティ向上に向けた取組を推進することにより、共同利用・共同研究拠点としての活動を活発にすることが望まれる。</p>

通し番号	12
共同利用・共同研究拠点名	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(情報基盤センター【中核施設】)、 北海道大学(情報基盤センター)、 東北大学(サイバーサイエンスセンター)、 東京科学大学(情報基盤センター)、 名古屋大学(情報基盤センター)、 京都大学(学術情報メディアセンター)、 大阪大学(サイバーメディアセンター)、 九州大学(情報基盤研究開発センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>大規模システム技術等の分野でそれぞれに強みを持つ8大学センターがネットワークを構成し、計算科学・データ科学・計算機科学と接続された学際的な中核的研究拠点として、計算資源についてネットワーク経由での利用環境を供するとともに、新たにデータ科学を取り込むことで世界の急激に変化する情勢にも迅速に対応するなど、全分野の関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、女性研究者や若手研究者が少なく、教員の流動性も限定的でダイバーシティ向上に向けた取組が十分推進されているとは言えない。</p> <p>今後は、大規模言語モデル時代に向けた新しいネットワーク型基盤構築への対応とともにダイバーシティ向上に向けた具体的な取組の検討が期待される。</p>

通し番号	13
国際共同利用・共同研究拠点名	材料科学国際共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(金属材料研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>材料科学研究分野の中核的研究拠点として、無冷媒強磁場マグネットや中性子散乱実験施設、スーパーコンピュータといった世界最高水準の大型施設と、蓄積した実績と研究者陣容をもつ研究環境を国際的な共同利用・共同研究に供するとともに、高温超伝導材料などの材料科学に関わる多様な研究テーマで分野融合的な共同研究も大規模かつ組織的に展開している。国際共著論文割合比率や TOP10%論文数も増加しており、世界水準の優れた成果を数多く創出することにより、国内外の関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、引き続き、外国人研究者や女性研究者の教員への積極的な登用を行う等のダイバーシティの向上に向けた取組をさらに推進していくことが期待される。</p>

通し番号	14
国際共同利用・共同研究拠点名	宇宙線国際研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(宇宙線研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>宇宙線物理学の中核的研究拠点として、光学、電波、X線衛星では観測できない天体の深部における物理現象を、高エネルギー宇宙線・ガンマ線・ニュートリノ・重力波などによって解明していく研究について、装置性能や測定感度の向上について不断の努力を行いつつ、国際的な共同利用・共同研究体制により推進するとともに、世界水準の国際的な学術誌への多数の論文発表やTOP10%論文の高い割合など、世界水準の優れた成果を数多く創出することにより、国内外の関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、期末評価における指摘事項について、やや改善はみられるものの、女性研究者や外国人研究者の数が少なく、ダイバーシティ向上に向けた更なる努力が必要である。</p> <p>今後は、女性研究者や外国人研究者の教員としての積極的な登用等やダイバーシティ向上に向けた取組の推進とともに、科研費の教員1人あたりの採択数や採択額の更なる増加に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	15
共同利用・共同研究拠点名	低温科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(低温科学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>低温科学分野における中核的かつ世界的にも特長ある研究拠点として、国内外の研究機関と幅広い分野にわたって活発に共同研究を推進し、優れた学術的成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、民間企業とも共同で機器開発を行う等、産学連携や社会貢献においても優れた成果を挙げていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、期末評価結果における留意事項にて指摘されていた外国機関や外国人研究者の共同研究への参加を促す具体的な仕組みの構築等を通じた国際共同研究の発展については改善の努力は見られるものの、特に、国際共同研究数や参加外国機関数、参加外国人研究者数については一層の取組が必要である。</p> <p>今後も、若手研究者の育成に引き続き取り組むとともに、教授・准教授レベルでの女性研究者登用や国際共同研究等をより一層積極的に推進することが期待される。</p>

通し番号	16
共同利用・共同研究拠点名	情報通信共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(電気通信研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>情報通信分野における中核的研究拠点として、多様な研究設備を活用した共同研究を通じて優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、全国の研究者や大学院生等と共同プロジェクト研究を実施し、国公私立大学や民間企業、海外の研究者との連携を推進していることは高く評価できる。</p> <p>一方で、民間企業との共同研究及び受託研究による外部資金獲得は良好であるものの、科研費の獲得は必ずしも十分とは言えない。</p> <p>今後は、共同研究について重点配分の仕組みを検討する等、拠点としての活動を着実に進展させ、産学連携の推進と研究成果の創出に一層取り組むとともに、科研費の獲得にも積極的に取り組むことが期待される。</p>

通し番号	17
共同利用・共同研究拠点名	流体科学国際研究教育拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(流体科学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>流体科学分野における中核的研究拠点として、多様な研究設備を活用した共同研究が国内外の多くの研究者の参加によって活発に実施され、優れた研究成果を挙げているとともに、リヨンセンター公募共同研究等の国際連携を意識した活動や博士前期課程学生海外発表促進プログラム及び技術教育研修等を通じて若手研究者や学生の育成・支援に積極的に取り組んでいることは関連コミュニティへの貢献を果たしているものとして高く評価できる。</p> <p>一方で、全体の論文数について減少している傾向が見受けられる。</p> <p>今後は、国際連携に継続的に取り組み、リヨンセンター以外の海外研究機関からの採用やテニュアトラック制度の強化により研究者のダイバーシティ推進を図るとともに、質の高い論文を増やすことが期待される。</p>

通し番号	18
共同利用・共同研究拠点名	環境リモートセンシング研究拠点
大学等名 (研究施設名)	千葉大学(環境リモートセンシング研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>環境リモートセンシングにおける中核的研究拠点として、共同利用・共同研究に供するための施設設備やデータアーカイブを整備し、衛星・環境データの社会応用等幅広い課題に取り組んでおり、関連コミュニティや社会への貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、期末評価結果における留意事項への対応を進めているものの、公募による共同利用・共同研究課題の応募・採択件数は必ずしも十分とは言えず、学生を含めた若手研究者の参加は比較的少ない。</p> <p>今後は、公募による共同利用・共同研究課題の応募・採択件数や若手研究者の参加の増加に向けて具体的な方策を検討し、更なる改善に取り組むことが期待される。</p>

通し番号	19
共同利用・ 共同研究拠点名	空間情報科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(空間情報科学研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>空間情報科学分野における中核的研究拠点として、国内外の多くの研究者が参加して共同研究が行われていることとともに、空間データ基盤や独自に開発された共同研究支援システムにより共同研究者の利便性の向上に対する配慮が十分になされ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、国際共同研究の割合や海外共著論文等の状況から拠点の活動が国内に留まっているものと見受けられる。</p> <p>今後は国際的な活動を展開し、TOP10%論文をはじめとする優れた研究成果の創出を目指すとともに、広報活動を通して地域社会への更なる貢献が期待される。</p>

通し番号	20
共同利用・共同研究拠点名	地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(地震研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>地震・火山科学分野における中核的研究拠点として、地震・火山に関するデータのリアルタイム配信をはじめとして関連コミュニティへ先進的なデータサイエンス基盤を提供するなど、国内外から多数の研究者が参加して共同利用・共同研究が実施される取組を推進するとともに、共同研究を通じて優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、女性研究者や外国人研究者の増加に向けて取り組まれているものの、その実績については必ずしも十分とは言えない。</p> <p>今後は、構成員の多様性向上に向けた取組の更なる推進とともに、優れた女性研究者・外国人研究者の育成までを含めた継続的な取組が期待される。</p>

通し番号	21
共同利用・共同研究拠点名	先端無機材料共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京科学大学(総合研究院フロンティア材料研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>先端無機材料分野における中核的研究拠点として、共同利用・共同研究による優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、若手研究者育成の取組として経済的な支援による国際的な若手研究者の受入れが適切になされていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、分野の特性は考慮されるものの、学内外の委員や常勤教員に占める女性割合は必ずしも十分とは言えない。</p> <p>今後は、更なるダイバーシティ向上に向けた取組の推進のために、引き続き数値目標を定める等して女性割合の増加に努めるとともに、特に教授・准教授レベルの女性教員の採用が期待される。</p>

通し番号	22
共同利用・共同研究拠点名	越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	金沢大学(環日本海域環境研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>越境汚染に伴う環境変動研究を行う中核的研究拠点として、共同研究実績や科研費等外部資金獲得実績が非常に高く、世界をリードする優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、海外との連携が進められつつあるものの、研究者の海外派遣や外国人研究者の招へい等については、一層の取組が必要である。</p> <p>今後は、研究の対象を環日本海域を中心とした研究から全球規模を視野に入れた研究へ拡大し、海外連携を積極的に推進するとともに、得られた研究成果を能登半島周辺の地域や社会に還元することが期待される。</p>

通し番号	23
共同利用・共同研究拠点名	宇宙地球環境研究拠点
大学等名 (研究施設名)	名古屋大学(宇宙地球環境研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>宇宙地球環境をシームレスに捉え、それらを包括的に理解するための総合研究を行う中核的研究拠点として、国際人材を育成する共同利用・共同研究拠点としての実績を十分に挙げ、分野を超えた融合研究にも積極的に取り組むとともに、世界各地で運用する観測装置から得られた観測データを共同利用・共同研究に供することで関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、国際水準の共同研究や人材育成の取組を更に進めるとともに、それらを地球環境問題に対する社会的価値の創造に繋げていくことが期待される。</p>

通し番号	24
共同利用・共同研究拠点名	環境調和型で持続発展可能な省エネルギー・創エネルギーのための材料とシステム研究拠点
大学等名 (研究施設名)	名古屋大学(未来材料・システム研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>省エネルギーデバイス・材料分野における中核的研究拠点として、革新的省エネルギーのための基盤技術の研究に取り組むとともに、世界最先端の研究設備を保有し共同利用・共同研究に供することで関連コミュニティへの一定の貢献を果たしていることは評価できる。</p> <p>一方で、期末評価結果における留意事項に関し、共同利用・共同研究への応募件数は増加傾向にあり、改善に向けた努力は認められるものの、国際共同研究の割合は低調であり、共同利用・共同研究の成果としての論文数については拠点の規模に比して十分とは言えない。また、外国人教員や女性教員の採用への尽力は認められるものの、学内外委員に占める女性割合は低調である。</p> <p>今後は、国際共同研究を積極的かつ効果的に推進するとともに、ダイバーシティの観点での取組を一層推進し、研究成果を目に見える形で挙げるのが望まれる。</p>

通し番号	25
共同利用・共同研究拠点名	ゼロエミッションエネルギー研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(エネルギー理工学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>エネルギー基礎科学分野における中核的研究拠点として、質の高い論文等を多数発表し、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、産学連携事業についても順調に進めつつ、新分野創成に意欲的に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>一方で、重点領域のうち「プラズマ量子エネルギー」の研究成果については十分とは言えない。</p> <p>今後は、カーボンネガティブ・エネルギー研究を積極的に推進することに鑑み、既存施設の維持・利用についてリソースの再配分を行う等、実効性のある取組がなされることが期待される。</p>

通し番号	26
共同利用・共同研究拠点名	理論物理学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(基礎物理学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>理論物理学分野における中核的研究拠点として、国内外から多数の研究者が参加して共同利用・共同研究が実施され、研究成果として質の高い論文が多数発表されており、関連コミュニティへの多大なる貢献を果たすとともに、国際化やダイバーシティ推進の実現に向けた取組が積極的に実施されていることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、女性研究者割合の向上の取組を更に進めるとともに、幅広い分野との融合により新たな研究への挑戦を更に推進することが期待される。</p>

通し番号	27
共同利用・共同研究拠点名	自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(防災研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>自然災害に関する総合防災学の中核的拠点として、充実した施設・設備を基盤として優れた研究成果を挙げつつ、災害地での研究活動や宇治川オープンラボラトリーでの取組など地域社会や関連コミュニティへの一定の貢献を果たしていることは評価ができる。</p> <p>一方で、研究成果を適切に把握できていなかった点については拠点を運営する上で大きな問題であり、改善を要する。</p> <p>今後は、拠点の運営体制を見直し、適切に研究成果を把握するとともに、より一層情報発信機能を強化し、拠点活動や研究成果を広く社会に還元することが望まれる。</p>

通し番号	28
共同利用・共同研究拠点名	接合科学共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(接合科学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>溶接・接合に特化した接合科学分野における中核的研究拠点として、多様な研究設備を活用した共同研究を実施している。若手研究者も含めて国内外から多数の研究者を受け入れるとともに、アジア地域を中心に国際連携活動等を行っており、多面的な国際動向の把握を行い、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、国際共同研究の割合や人的交流実績が十分とは言えない。</p> <p>今後は、国際共同研究の割合を向上させるための具体的な方策を検討するとともに、産学連携を活用した幅広い分野との融合による新しい研究への挑戦と、そこから生まれる質の高い学術研究成果の創出が期待される。</p>

通し番号	29
共同利用・共同研究拠点名	惑星物質科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	岡山大学(惑星物質研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>地球・惑星物質科学の中核的拠点として、独自の研究設備や実験技術を活かすことにより、小規模な拠点ながらも国際的に質の高い研究成果を挙げるとともに、若手研究者や技術者の育成にも取り組んでおり、研究者コミュニティに一定の貢献を果たしていることは評価ができる。</p> <p>一方で、期末評価結果における留意事項に関し、対応が十分とは言えず、外部資金の獲得実績についても低調である。</p> <p>今後は、ビジョンに基づく展開を図りつつ質・量ともに十分な研究成果を上げるとともに、拠点規模の拡大・発展につながる共同利用・共同研究者の受入れ、外部資金の獲得促進に取り組むことにより共同利用・共同研究拠点としての活動を活発にすることが望まれる。</p>

通し番号	30
共同利用・共同研究拠点名	先進超高圧科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	愛媛大学(地球深部ダイナミクス研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>先進超高圧科学の中核的研究拠点として、小規模施設ながらも活発な活動が行われており、独自の施設・設備を活用した共同研究により国際的にも高い水準の優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、国際共同研究や産業界との連携の促進が図られていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、組織のダイバーシティ向上に向けた取組や国際的な論文発表数については十分とは言えず、産学連携を活用した異分野融合・新領域の創出についてはまだ萌芽的である。</p> <p>今後は、共同研究の水準を維持しつつ、更なる国際的な成果の公表に取り組むとともに、異分野融合・新領域の創出に向けた具体的な方策の検討が期待される。</p>

通し番号	31
共同利用・共同研究拠点名	産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	九州大学(マス・フォア・インダストリ研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>産業数学分野の中核的研究拠点として、国内外から多くの研究者を受け入れて共同研究を実施し、講演会やシンポジウムを多数開催するとともに、産業界との連携にも積極的に取り組んでおり、関連コミュニティへの一定の貢献を果たしていることは評価ができる。</p> <p>一方で、期末評価における指摘事項である共同研究の応募・採択数、研究者の海外派遣や招へいについては改善の傾向が見られるものの、拠点規模に比して依然として十分とは言えない。</p> <p>今後は、産業界との連携に継続的に取り組むとともに、その効果をより広く社会に還元することにより共同利用・共同研究拠点としての活動を活発にすることが望まれる。</p>

通し番号	32
共同利用・共同研究拠点名	軽金属材料共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	熊本大学・富山大学(先進軽金属材料国際研究機構)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>軽金属材料を総合的に扱う中核的拠点として、拠点認定後から両大学連携の下、順調に研究成果を積み上げながら、地域連携や産学連携に取り組んでいること、大学院教育や共同研究機器のリモート利用等に積極的に取り組んでいることは評価ができる。</p> <p>一方で、国際共同研究を含む共同研究数については、共同利用・共同研究拠点としての役割を十分に果たしているとは言えない。</p> <p>今後は、2大学の強みをより効果的に発揮するために連携体制を一層強化し、国際共同研究等の成果創出につなげるとともに、公募研究数を増加させるための広報活動をより活発に行うことが望まれる。</p>

通し番号	33
共同利用・共同研究拠点名	物質・デバイス領域共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(産業科学研究所【中核施設】)、 北海道大学(電子科学研究所)、 東北大学(多元物質科学研究所)、 東京科学大学(総合研究院化学生命科学研究所)、 九州大学(先導物質化学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>5大学5研究所による物質・デバイス領域における拠点ネットワークとして共同利用・共同研究に供される装置群や技術サポートの充実も図られており、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、産学連携ワンストップ窓口により企業と研究者とのマッチング・協働を活性化し、多くの特許の出願に結び付けていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、拠点の規模を鑑みると、研究成果については十分とは言えない。</p> <p>今後は、研究成果の更なる創出に尽力し、拠点の規模に相応しい成果を得ることが期待される。</p>

通し番号	34
共同利用・共同研究拠点名	触媒科学計測共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(触媒科学研究所【中核施設】)、 大阪公立大学(人工光合成研究センター)、 産業技術総合研究所(触媒化学融合研究センター【連携施設】)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>触媒化学分野における中核的研究拠点として、共同利用・共同研究による優れた研究成果を創出し、関連コミュニティへの一定の貢献を果たすとともに、異分野融合や新学術領域の開拓に意欲的に取り組んでいることは評価ができる。</p> <p>一方で、3つの研究機関が連携することによる効果が十分に発揮されているとは言えない。</p> <p>今後は、協働する各機関が強みとする分野等が異なることに留意しつつ、ネットワーク型拠点であることのメリットを最大限活かすための仕組みを更に積極的に検討するとともに、ネットワーク型拠点として幅広い分野を支援していることを関連コミュニティ等に周知するための広報活動にも力を入れることが望まれる。</p>

通し番号	35
国際共同利用・共同研究拠点名	数学・数理科学の国際共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(数理解析研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>数学・数理科学の中核的研究拠点として、国際的連携研究が活発に行われており、当該分野の基盤的研究機関として国際的にも高く認知されている。特に訪問滞在型研究には多数の研究者が参加し、ネットワークが構築され、世界的にも優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、女性研究者や若手研究者の採用増加の取組を更に進めるとともに、国際的連携研究を更に推進することで関連コミュニティを牽引していくことが期待される。</p>

通し番号	36
国際共同利用・共同研究拠点名	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際グローバル研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(化学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>化学分野における中核的研究拠点として、多数の国内外機関とネットワークを形成し、アジア・北米・欧州を結ぶハブ機能を担い、それらの国内外機関との連携のもと、優れた研究成果が創出され、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、女性研究者の増加に関しても精力的に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>一方で、若手研究者育成の取組として若手研究者海外短期派遣や短期受入事業を推進しているものの、その実効性については不明瞭である。</p> <p>今後は、博士課程学生の助教としての採用や助教から講師・准教授への昇進など優れた若手研究者のステップアップのための仕組み作りに取り組むなど、新分野に挑戦する人材を育成するための具体的な取組を行うことが期待される。</p>

通し番号	37
国際共同利用・共同研究拠点名	国際サブアトムック科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(核物理研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>原子核物理分野における中核的研究拠点として、世界的にも特長ある研究プラットフォームを共同利用・共同研究に供している。運営委員会を通して海外機関所属委員からも関連コミュニティの意見を取り入れ、国際的な動向の把握にも努めつつ、国際連携による分野融合研究に積極的に取り組み優れた研究成果を挙げるとともに、国内外のネットワークを活かした人材育成事業を行い、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、若手研究者、女性研究者や外国人研究者の採用については、さらなる改善に向けた取組の継続と発展が必要である。今後も、研究者のダイバーシティ向上に向けた取組を着実に推進することが期待される。</p>

通し番号	38
共同利用・共同研究拠点名	細菌やウイルスの持続性感染により発生する感染癌の先端的研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(遺伝子病制御研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>細菌やウイルスの持続的感染により発生する感染癌に関する中核的研究拠点として、共同研究数や論文数ともに順調に増加傾向にあり、共同研究が活発に行われるとともに、比較的小規模な研究施設でありながら大型研究費の獲得や、ハイインパクトジャーナルでの論文発表を行うなど優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、これらの大型研究費の獲得や研究成果の実績は必ずしも感染癌領域の研究の推進に十分に寄与しているものばかりとは言えない。</p> <p>今後は、構成員が主著者のハイインパクト論文を更に増加させるとともに、「感染癌」に特化した共同利用・共同研究拠点としてあり続けるのか、あるいはより広範な生命科学領域の共同利用・共同研究拠点として成長、発展を目指すのか、未来的思考に基づいた方向性の検討が期待される。</p>

通し番号	39
共同利用・共同研究拠点名	人獣共通感染症研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(人獣共通感染症国際共同研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>人獣共通感染症に関する世界的なネットワークが構築された中核的研究拠点として、国内最大規模の BSL3 施設は民間企業も含め全国から多くの共同利用に供されるとともに、多額の外部資金の獲得やハイインパクトジャーナルへの論文発表など高い研究レベルを持続、発展し続け、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、共同利用・共同研究拠点に紐づく大型グラントの獲得は多いものの、各教員の科研費の獲得状況については十分でなく、また、一部の共通利用機器においてほとんど稼働していないものが散見される。</p> <p>今後は、科研費等の外部資金の獲得に更に努めるとともに、最先端機器の一層の活用を図るため、広く関連コミュニティに周知・利用を促す具体的取組の検討が期待される。</p>

通し番号	40
共同利用・共同研究拠点名	加齢医学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(加齢医学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>加齢医学研究に関する多面的な研究を国際的に推進する中核的研究拠点として、世界でもユニークな呼吸医療システムの開発など優れた研究成果を挙げながら、各種脳画像データベースなどの研究資源の共同利用を行うなど関連コミュニティへの多大なる貢献を果たすとともに、期末評価における留意事項に対応し、基礎生命科学から人文社会科学にわたる異分野融合研究への取組がなされている点は非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、拠点研究者が責任的立場としてまとめた論文のトップジャーナルへの投稿や外部資金の獲得を更に推進するとともに、対面での国際交流を活発化させるなど国際的な加齢医学研究の更なる強化が期待される。</p>

通し番号	41
共同利用・共同研究拠点名	内分泌・代謝学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	群馬大学(生体調節研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>内分泌学・代謝学における基礎医学研究の中核的研究拠点として、期末評価における留意事項に対応し、従来の内分泌学、代謝学の枠を越え、ヒト臓器構築の研究に代表される異分野融合的研究が進められているとともに、共同利用・共同研究拠点として新たに腸管オルガノイドの供与を開始、また、ヒト膵島の分配の中継地点として内分泌・代謝研究の推進に尽力するなど関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、異分野融合研究については内分泌代謝学、生命科学にとどまっており、当該研究所所属教員が中心となった研究の成果や科研費などの外部資金の獲得実績については、必ずしも十分とは言えない。</p> <p>今後は、異分野融合研究を更に臨床医学に近づけるものへと発展させる道筋、国際戦略に向けた方策や外部資金の獲得方策を具体的に検討することが期待される。</p>

通し番号	42
共同利用・共同研究拠点名	真菌感染症研究拠点
大学等名 (研究施設名)	千葉大学(真菌医学研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>真菌感染症研究に特化した中核的研究拠点として、センター長のリーダーシップの下、新たな異分野融合研究領域を立ち上げ、複合的な研究を展開するとともに、世界規模の真菌バイオリソース、SPF 真菌感染動物施設等の設備を活かし、関連研究分野との共同研究が進められ、関連コミュニティに一定の貢献を果たしていることは評価ができる。</p> <p>一方で、当該センター所属教員が中心となった研究成果や科研費などの外部資金の獲得実績は十分とは言えない。</p> <p>今後は、貴重な真菌・バイオリソースセンターとして全国的な認知度を更に高め、利用率の増加により共同研究を活性化させ研究力の更なる向上を図るとともに、真菌研究に特化した共同利用・共同研究拠点としてあり続けるのか、あるいはより広範な生命科学領域の共同利用・共同研究拠点として成長、発展を目指すのか、未来的思考に基づいた方向性の検討が望まれる。</p>

通し番号	43
共同利用・共同研究拠点名	難治疾患共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京科学大学(総合研究院難治疾患研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>難治疾患に関わる幅広い研究領域に関して、多彩な研究手法を用いて先駆的な研究推進する中核的研究拠点として、多くの大型外部資金を獲得し、最先端の研究設備と豊富な研究資源を有するとともに、共同利用・共同研究ではより広く採択する取組を行うなど関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、共通機器の利用状況について確認を行いつつ共同利用・共同研究を更に進めるとともに、大学統合に伴い、当該研究所の運営や生命科学にとどまらない異分野融合研究の更なる強化が期待される。</p>

通し番号	44
共同利用・共同研究拠点名	病理リソースを活用した脳神経病態共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	新潟大学(脳研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>基礎研究部門と臨床部門を併せ持った脳神経疾患に関する中核的研究拠点として、質・量ともに他の追随を許さないヒト脳神経病理標本を惜しみなく共同利用・共同研究に供与するとともに、共同利用・共同研究による優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、当該研究所所属教員が中心となった研究の成果や科研費などの外部資金の獲得実績は十分とは言えない。</p> <p>今後は、研究力の更なる向上を図るとともに、我が国の脳神経疾患研究を推進する共同利用・共同研究拠点として、従来型研究であるヒト脳サンプル供与やマウスモデル供与のみならず、最先端の脳神経科学研究手法やデータサイエンスも取り入れた脳神経研究拠点としての更なる発展が期待される。</p>

通し番号	45
共同利用・共同研究拠点名	がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	金沢大学(がん進展制御研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>がんの転移・及び薬剤耐性に関わる中核的研究拠点として、国内外の共同研究を活発に実施し、多くの画期的な研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、次世代若手研究者の発掘・支援や学内の研究所との連携による異分野融合研究の創成など、将来の研究展開に向けた取組を推進している点は高く評価できる。</p> <p>一方で、拠点の有するがんオルガノイドに代表される細胞、組織資源、薬剤ライブラリー、遺伝子改変マウスなど貴重な資源が関連コミュニティに十分に活用されているとは言えず、得られた知見のがん治療の臨床応用についても十分ではない。</p> <p>今後は、積極的な広報活動を行うなど共同利用・共同研究拠点として関連コミュニティに対しアピールを行うとともに、構成員が共同研究の成果として主たる貢献をした論文等の業績数の増加に資する取組や民間との共同研究も含め、研究成果の社会実装に対する取組の強化が期待される。</p>

通し番号	46
共同利用・共同研究拠点名	ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(医生物学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>ウイルス感染研究、幹細胞・組織再生研究、生命システム研究の基礎と応用の研究を展開する中核的研究拠点として、霊長類及びマウス P3 感染実験室やクライオ電顕などを共同利用に供しており、競争的資金の獲得や論文数も多く、顕著な研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、再生のテクノロジーを用いた新たな新型コロナ研究に取り組むなど、合併のシナジー効果が出始めているものの、まだ、ウイルス学や再生医科学がやや独立し合っているような印象があり、また、研究業績や大型プロジェクトへの発展は、共同利用・共同研究拠点の成果というよりは構成員個々の力量に大きく依存しているように見受けられる。</p> <p>今後は、より研究所を統合させた効果を明確にさせるとともに、共同利用・共同研究拠点として今後どのような研究を展開していくのか、共同研究の発展性も含めた具体的な方策の検討が期待される。</p>

通し番号	47
共同利用・共同研究拠点名	微生物病共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(微生物病研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>感染症学、免疫学、生体応答医学に関わる中核的研究拠点として、世界的な研究成果を継続的に挙げ、BSL-3 実験室、専任スタッフによるシングルセル解析、空間トランスクリプト解析を共同利用に供する等関連コミュニティへの多大なる貢献を果たすとともに、女性研究者や外国人研究者を採用し、グローバルな研究機関としての体制強化に尽力していることは非常に高く評価できる。今後は、PI として優秀な若手研究者を積極的に登用することを推進するとともに、数多くの研究成果の社会実装に向けた取組を更に強化することが期待される。</p>

通し番号	48
共同利用・共同研究拠点名	酵素学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	徳島大学(先端酵素学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>酵素学を基盤とした基礎医学研究の中核的研究拠点として、生命情報を統合的に理解する先進的な基礎医学研究を推進し、国際的に先導的な成果を発信するとともに、オミクス解析に関して、非常に質の高い共同研究が全国的に広がり、その成果が創出され、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、医学研究として創薬も目指しているものの、具体的な臨床との連携が不明瞭である。</p> <p>今後は、共同利用・共同研究の更なる推進とともに、重点研究課題である慢性炎症の異分野融合研究への発展可能性に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	49
共同利用・共同研究拠点名	プロテオインタラクトーム解析共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	愛媛大学(プロテオサイエンスセンター)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>蛋白質の相互作用を網羅的に明らかにするインタラクトーム解析の中核的研究拠点として、施設の有するタンパク質インタラクトーム技術等を共同利用・共同研究に供するとともに、学内のリソースを利用しながら順調に成果を挙げている点は評価できる。</p> <p>一方で、一部の共同利用機器の稼働率は10数%であり、得られたデータの解析をデータサイエンスの観点から補完する体制は十分とは言えず、また、共同利用に供する資料も蛋白質アレイの提供にとどまっており、関連コミュニティに対する貢献が限定的である。</p> <p>今後は、関連コミュニティに対する更なる共同利用の促進に向けて、すでに得られたタンパク質間相互作用の研究データを公開する仕組みを検討するなど多くの研究者に有益な拠点となるよう具体的な方策の検討が望まれる。</p>

通し番号	50
共同利用・共同研究拠点名	多階層生体防御システム研究拠点
大学等名 (研究施設名)	九州大学(生体防御医学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>生命科学分野における中核的研究拠点として、独自に開発した時空間的オミクス解析技術を惜しみなく公開し、ワンストップで共同利用・共同研究に供するとともに、十分な支援体制のもと、得られたデータの数理的解析までサポートするなど、関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、若手、女性研究者だけでなく、国際公募等を通じ外国人研究者の比率を上げ研究環境のダイバーシティ化に更に取り組むとともに、ほぼ国内に限定されている公募共同研究について、積極的な広報活動に取り組むことにより国際共同研究の応募、採択をさらに推進することが期待される。</p>

通し番号	51
共同利用・共同研究拠点名	新興感染症制御研究拠点
大学等名 (研究施設名)	長崎大学(高度感染症研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>我が国初の BSL-4 施設での高度感染症研究を担う中核的研究拠点として、現時点では BSL-4 施設の運用は準備段階であるものの、BSL-2 および BSL-3 施設にて共同研究を実施し、感染症研究の横断的な繋がりに貢献するハブ拠点到成長しつつあるとともに、感染症領域では着実に研究成果を挙げつつあることは評価ができる。</p> <p>一方で、共同利用・共同研究の応募ならびに採択数が少なく、現員数からみて科研費の取得数・額とも十分とは言えない。</p> <p>今後は、BSL-4 施設の稼働に向けた準備を着実に進め、稼働後は同施設を用いた世界をリードできる研究を実施するため、共同研究の発展や新たな研究分野の開拓に向けた取組などを具体的に進めることが期待されるとともに、BSL-4 施設以外での実施事項についても共同利用・共同研究拠点として関連コミュニティに対する貢献について具体的に検討することが望まれる。</p>

通し番号	52
共同利用・ 共同研究拠点名	熱帯医学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	長崎大学(熱帯医学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>熱帯医学及び国際保健における中核的研究拠点として、アジア、アフリカという発展途上国に複数の海外拠点をもち、熱帯医学研究といった独自性の高い研究に取り組むとともに、感染症研究出島特区、ワクチン研究拠点として研究課題が採択されており、活発な拠点活動が展開され関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、ハイインパクトな研究成果の創出や、科研費の獲得状況向上については、更なる努力が必要である。</p> <p>今後は、国際的展開の更なる推進により国際的な研究レベルを向上させるとともに、研究者人口をより増やし、研究分野全体が拡大するような取組が期待される。</p>

通し番号	53
共同利用・共同研究拠点名	発生医学の共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	熊本大学(発生医学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>発生学と医学を融合した新学術領域を推進する中核的研究拠点として、高いレベルの研究を行い成果を挙げるとともに、多様な共用機器とバイオリソースを揃え、多様な学外機関が共同利用を行い、それらの意見・ニーズに対応するなど、関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、1課題当たりの共同研究経費を下げることで、より広く若手研究者の課題が参画できるような取組を更に進めるとともに、国際共同研究を促進することにより国際ハブとしての貢献をすることが期待される。</p>

通し番号	54
共同利用・共同研究拠点名	放射線災害・医科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	広島大学(原爆放射線医科学研究所【中核施設】)、 長崎大学(原爆後障害医療研究所)、 福島県立医科大学(ふくしま国際医療科学センター)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>放射線災害・医科学分野を融合した学術基盤を基にした中核的研究拠点として、ネットワークを構成する各研究施設の特性を活かした研究活動により、国際的にも先導的な研究を進め、福島復興を支援し、関連コミュニティや放射線災害医療に一定の貢献を果たしていることは評価できる。</p> <p>一方で、期末評価の留意事項である「拠点ネットワークとして更に有機的かつ一体的にサイエンスとしてどういった課題を設定し取り組むのかについて具体的なビジョンやテーマをより明確にする」点が不十分であり、ネットワーク形成による共同利用・共同研究促進の具体的利点や、各研究所・センター自身の研究力強化への繋がりが不明瞭である。</p> <p>今後は、物理的に距離のある3大学の統括方法に工夫を行ったり、3機関の共通認識事項や特徴を出すべき内容を明確化することで、学外からの利用促進に繋げるとともに、客観的視点をもつ海外研究者を拠点の構成員として加えること等により更なる世界への発信が望まれる。</p>

通し番号	55
国際共同利用・共同研究拠点名	基礎・応用医科学の推進と先端医療の実現を目指した医科学国際共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(医科学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>医科学分野の中核的研究拠点として、国内有数の様々な研究設備を共同利用に供するとともに、国際共同研究を積極的に進め、世界の著名研究所と伍する実績を挙げていることは、関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしており極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、優秀な外国人研究者や教授クラスの女性研究者の増加により研究環境のダイバーシティ向上に向けた取組を更に推進することが期待される。</p>

通し番号	56
共同利用・共同研究拠点名	原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	帯広畜産大学(原虫病研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>原虫病制圧に向けた国際的な取組を行う中核的研究拠点として、海外の大学や国際獣疫事務局等の国際機関等と連携し、原虫病や媒介節足動物に関する総合的研究を推進するとともに、宿主動物だけでなく、媒介動物を対象とした原虫病共同研究教育施設、解析機器設備の整備などにより関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、創薬研究に関し、民間が取り組みづらい側面はよく理解できるが、社会実装をするため、産学連携への工夫が必要である。</p> <p>今後は、産学連携の更なる推進とともに、ダイバーシティの向上に向けた女性研究者や日本人学生の増加が期待される。</p>

通し番号	57
共同利用・共同研究拠点名	形質転換植物デザイン研究拠点
大学等名 (研究施設名)	筑波大学(つくば機能植物イノベーション研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>形質転換植物に関する中核的研究拠点として、期末評価の指摘事項に対応し、基礎研究と応用研究を結び付けるパスを作ることを拠点の目標とし、形質転換植物に関する基礎研究から情報発信に至る一連の研究を行うとともに、国内外の共同利用・共同研究活動が活発に行われ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、植物の形質転換技術の中でもこの研究施設がもつ特色が明確ではなく、科研費についても十分に獲得できているとは言えない。</p> <p>今後は、植物の形質転換技術の中でも、この研究施設がもつ特色や秀でた領域を更に明確にするとともに、その点を前面に打ち出すことによりさらなる科研費獲得額の増加に努めることが期待される。</p>

通し番号	58
共同利用・共同研究拠点名	大気海洋研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(大気海洋研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>大気海洋に関する中核的研究拠点として、充実した支援体制を構築し、共同利用・共同研究活動が活発に行われ、複数の大型外部資金の獲得や国際学術誌への質の高い多数の論文発表など関連コミュニティへの多大なる貢献を果たすとともに、期末評価の指摘事項であるダイバーシティ向上に向けた取組に関しても女性限定人事を行うなど進展もあり、海外、地域や産業界に対し積極的にアプローチを図っている点は非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、気候システムのモデリング研究に関する成果や地域との連携活動の成果が拠点活動にどのようなインパクトを創出しているのか明確にするとともに、我が国の大気海洋分野を牽引していくことが期待される。</p>

通し番号	59
共同利用・共同研究拠点名	生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(生態学研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A-
評価コメント	<p>生態学・生物多様性科学分野の中核的研究拠点として、安定同位体ツールとして活用し、琵琶湖を対象とした湖沼研究により特徴ある研究を展開し、研究成果を挙げるとともに、大型の研究費を獲得するとともに、関連コミュニティへの一定の貢献を果たしていることは評価できる。</p> <p>一方で、期末評価の際に指摘をした調査船や安定同位体の分析施設等共同利用施設・設備の外部利用比率が未だ十分ではなく、琵琶湖以外の湖沼研究へのインパクト(あるいは波及効果)が不明瞭である。</p> <p>今後は、関連コミュニティである生態学・生物多様性科学分野全体への波及効果があるような拠点としての方向性を具体的に検討するとともに、センター構成員が主導的な役割を担う共同研究の成果としての論文が数多く発表されることが望まれる。</p>

通し番号	60
共同利用・共同研究拠点名	絶滅の危機に瀕する野生動物(大型哺乳類等)の保全に関する研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(野生動物研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>絶滅の危機に瀕する野生動物の保全に関する中核的研究拠点として、国内外に学外フィールド研究の拠点を有し、国内の動物園・水族館だけでなく、海外研究機関とも連携し、積極的に国際プロジェクトを推進し、質の高い論文発表等研究成果を挙げ、遺伝資源のデータベース等を通じた共同利用・共同研究も積極的に実施し関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、外国から大学院生や若手研究者を招いての実習・共同研究等を通じた人材育成や、期末評価の指摘事項を踏まえた新領域研究分野の開拓を行っていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、停滞している活動を活発化させるとともに、国際的にも独創的な研究の企画・進展が期待される。</p>

通し番号	61
共同利用・共同研究拠点名	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(蛋白質研究所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>蛋白質科学の中核的研究拠点として、原子分解能の分子構造から、その集合体としての細胞内装置、さらに細胞から個体に至る高次生命機能を解明するマルチスケール構造生命科学研究を展開するだけでなく、新たにデータ駆動型の蛋白質科学を提唱し、蛋白質構造データベース、先端データ科学、蛋白質の新規デザインといった異分野融合研究を国内外で推進するとともに、多くの共同研究を実施しインパクトの高い研究成果を挙げ、日本蛋白質構造データバンクで世界の登録件数の 3 割を登録するなど関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしていることは極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、関連コミュニティの若手人材育成やジェンダーバランス向上に向けた取組、研究インテグリティなどに関するコンプライアンス面についての取組を更に進め、我が国の蛋白質科学を牽引していくことが期待される。</p>

通し番号	62
共同利用・共同研究拠点名	乾燥地科学拠点
大学等名 (研究施設名)	鳥取大学(乾燥地研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>乾燥地科学研究の中核的研究拠点として、海外 14 カ国と連携して砂漠研究を行うとともに、国連砂漠化対処条約締約国会議に参加することで国際的ビジビリティを上げていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、期末評価の際に指摘をした共同利用施設・設備の稼働率が未だ不十分であり、論文数も減少している状況から、共同利用・共同研究拠点として活発な活動が十分なされているとは言えない。</p> <p>今後は、乾燥地研究を広く捉え、国内の関連コミュニティの増加を図る等共同利用・共同研究活動の活発化に向けた具体的な方策を検討することが期待される。</p>

通し番号	63
共同利用・共同研究拠点名	植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	岡山大学(資源植物科学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>植物遺伝資源・ストレス科学に関する中核的研究拠点として、資源植物の保全・機能開発と創成を図るための研究、オオムギ・野生植物の収集・保存・解析、環境ストレスに適応する資源植物の開発研究に焦点を当てて研究を進め、イネやオオムギの遺伝資源情報などで国際的なプロジェクトに関わり、高い研究成果を創出するなど関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、若手向けの研究費も整備するなど、人材育成にも力を入れていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、共同利用に供している研究設備の中には、稼働率の低いものが見られる。また、研究所の規模を勘案すると、拠点に所属する者の論文数が十分とは言えない。</p> <p>今後は、電位解析システムや水田圃場等の共同利用に供している研究設備の特徴を明確化させ、稼働率の上昇に取り組むとともに、拠点に所属する一部の研究者に留まらず、その他の研究者についても研究成果の創出を図ることが期待される。</p>

通し番号	64
共同利用・共同研究拠点名	化学汚染・沿岸環境研究拠点
大学等名 (研究施設名)	愛媛大学(沿岸環境科学研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>化学汚染・沿岸環境に係る中核的研究拠点として、国内最大の種数・検体数を有する生物環境試料バンク(es-BANK)及びデータベースをはじめ、試料分析装置等の特色ある施設・整備を共同利用に供することで、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、質の高い研究成果を創出し実績を挙げ、外部資金の獲得にも努めていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、運営面での工夫を検討するとともに、先端研究院内の他センターとの分野融合的な研究や女性・外国人の登用などダイバーシティの向上に向けた取組を更に進めることが期待される。</p>

通し番号	65
共同利用・共同研究拠点名	熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	琉球大学(熱帯生物圏研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>熱帯生物圏における環境生命科学の中核的研究拠点として、熱帯・亜熱帯生態圏において、広範な研究領域をカバーしつつ、データベース構築や共同利用・共同研究を実施し研究成果を創出しており、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、亜熱帯かつ島嶼特有の研究を実現するための貴重な施設としてメインキャンパス外の研究施設が活用されていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、熱帯生物圏という広範な範囲を対象としているため、特定の関連コミュニティとの結びつきが弱く特徴も明確ではない。また、女性比率の向上には努力しているものの、十分とは言えない。</p> <p>今後は、女性比率の更なる向上とともに、関連コミュニティからの要望を踏まえ、拠点の特徴を明確にし、更なる成果を創出することが期待される。</p>

通し番号	66
共同利用・共同研究拠点名	糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点
大学等名 (研究施設名)	名古屋大学・岐阜大学(糖鎖生命コア研究所【中核施設】)、 創価大学(糖鎖生命システム融合研究所)、 自然科学研究機構(生命創成探究センター【連携施設】)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>糖鎖生命科学に関する中核的研究拠点として、3 機関のネットワークから全国レベルのコラボレイティブフェローのネットワークを構築し、オールジャパンの体制を作り上げており、共用機器の利用状況、データベース利用状況も良好で関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、外国人教員も多く、世界トップレベルの研究者もクロスアポイントメントなどで参加するなど、国際的な認知を上げていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、ネットワーク型拠点としての共同利用・共同研究での論文業績等の成果が十分多いとは言えない。</p> <p>今後は、ネットワーク型拠点としてどのような研究成果を創出していくのか、共同利用・共同研究での実績をどのように挙げていくのかについて、具体的な方策の検討を行い、ネットワーク拠点としての活動を活発化させることが期待される。</p>

通し番号	67
共同利用・共同研究拠点名	スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(スラブ・ユーラシア研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>スラブ・ユーラシア地域研究の中核的拠点として、全国に分散しているスラブ・ユーラシア地域やロシア・東欧地域研究者をつなげるハブ機能を担っており、教員及び共同利用・共同研究の国際公募を行う等により、拠点の国際的プレゼンスを高め、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、拠点の公募研究における大学院生への参加資格の付与や論文指導等により、若手研究者育成にも積極的に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>一方で、関連コミュニティの意見を幅広く取り入れるための取組や新たな学問領域を生み出すための取組については更なる検討が必要である。</p> <p>今後は、具体的な計画に基づきこれらの取組を推進することが期待される。</p>

通し番号	68
共同利用・共同研究拠点名	日本史史料の研究資源化に関する研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(史料編纂所)
評価区分 (中間評価結果)	S
評価コメント	<p>日本史史料の研究資源化に関する中核的研究拠点として、収集した日本史資料を編纂し、デジタル・アーカイブ化することで、国内外の研究者の利用に供するとともに、日本史用語翻訳グロッサリー・データベースの立ち上げ等により、日本史の研究概念・史料用語の英訳という日本史研究の国際化の基盤整備に欠かせない困難な課題に取り組んでいることは、関連コミュニティへの多大なる貢献を果たしており、極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、グロッサリー・データベース等の取組を推進することによる日本史研究の国際化基盤の更なる強化とともに、史料のデジタル・アーカイブ化のみならず、データ化した史料の活用による新しい歴史学研究を開拓することが期待される。</p>

通し番号	69
共同利用・共同研究拠点名	アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京外国語大学(アジア・アフリカ言語文化研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>アジア・アフリカの言語文化に関する中核的研究拠点として、共同利用・共同研究のみならず国際共同研究にも積極的に取り組み、関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、若手研究者の育成にも力を入れていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、国際公募による外国人教員の採用、特にアジア及びアフリカ地域からの採用が期待されるものの実現には至っていない。</p> <p>今後は、共同利用・共同研究の更なる推進とともに、外国人研究者の受入による国際化の推進が期待される。</p>

通し番号	70
共同利用・共同研究拠点名	「日本および世界経済の高度実証分析」拠点
大学等名 (研究施設名)	一橋大学(経済研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>日本及び世界経済の高度実証分析の中核的研究拠点として、大学からの支援の下、国内外の経済統計データベースを活用したプロジェクト研究が活発に行われ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、拠点としては卓越した研究業績が挙げられているものの、拠点外の研究者が挙げた成果については十分に可視化されていない状況である。</p> <p>今後は、データベースの更なる充実化を図るとともに、それらを活用した拠点外の研究者が研究成果を挙げることを期待される。</p>

通し番号	71
共同利用・共同研究拠点名	先端経済理論の国際的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(経済研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>先端経済理論に関する中核的研究拠点として、国内に留まらず海外の研究機関とのネットワーク構築や国際学会の動向把握、国際学術誌の編集・刊行等国際化に積極的に取り組み関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、異分野融合や社会連携を推進していることは高く評価できる。</p> <p>一方で、関連コミュニティからの要望を踏まえた共同研究テーマの設定を行っているのか、異分野融合や社会連携の取組を今後どのような方向に拡充していくかは不明瞭である。</p> <p>今後は、関連コミュニティの意見を取り入れつつ、積極的な拠点活動を行うことで優れた研究成果を生み出すとともに、具体的な方向性を持って異分野融合や社会連携の拡充が図られることが期待される。</p>

通し番号	72
共同利用・共同研究拠点名	人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(人文科学研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>人文領域の複合的な中核的研究拠点として、拠点活動や共同研究の公募の在り方等について、関連コミュニティの意見を取り入れながら積極的な改善に取り組みつつ、国内外の研究者と共同研究を実施し関連コミュニティへの貢献を果たすとともに、その成果を一般市民へ発信するための取組も継続して実施していることは高く評価できる。</p> <p>一方で、異分野融合により創出を目指している新たな学問領域の方向性については不明瞭である。</p> <p>今後は、異分野を融合させて新たな学問領域の創成に具体的にどのように展開させていくのかを明確化させるとともに、DX や AI 等の新しい技術を念頭に、異分野融合を推進することが期待される。</p>

通し番号	73
共同利用・共同研究拠点名	行動経済学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(社会経済研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>行動経済学に関する中核的研究拠点として、国際学術誌の継続的な編集・公刊や国際共同研究の推進等により、国際的な共同研究のハブとして機能し、関連コミュニティへの貢献を果たしつつ、期末評価結果における留意事項についても大学とともに適切に対応し、中核的研究者と若手研究者を採用し、研究力の強化を図っていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、外部評価委員と運営諮問委員が重複しており、本体制で拠点の活動状況について適切な外部評価を十分得られるとは言えない。</p> <p>今後は、より適切な外部評価が得られるように外部評価委員会の体制を再検討することが期待される。</p>

通し番号	74
共同利用・共同研究拠点名	人の活力・健康を増進するヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究拠点
大学等名 (研究施設名)	筑波大学(ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>アスリートのみならず一般健常人から慢性期有疾患者まで幅広く対象とした次世代ヒューマン・パフォーマンス科学の創出を目指した特色ある研究拠点として、研究体制の組織化や具体的な研究活動の推進の双方で野心的かつ活発な運営が行われているとともに、豊富な人材、資金を活かして共同利用・共同研究体制が整備され、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、スポーツとデジタルの融合、スポーツデータサイエンスなど、異分野融合としての成果の創出については、更なる取組が必要である。</p> <p>今後は、世界に伍する研究体制をいかに整えるか、また、国際研究体制をいかに構築していくかといった国際性の更なる強化とともに、世界的に価値ある異分野融合の成果の創出に向け具体的な方策を検討することが期待される。</p>

通し番号	75
共同利用・共同研究拠点名	低温プラズマ科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	名古屋大学(低温プラズマ科学研究センター)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>低温プラズマ研究の中核的研究拠点として、プラズマ科学プラットフォームを基盤設備として他機関との連携システムを構築し、低温プラズマ科学の深化に取り組むとともに、共同利用・共同研究を通じて低温プラズマ分野における優れた研究成果を挙げ、関連コミュニティへの貢献を果たしており、高く評価できる。</p> <p>一方で、外国人も含めた若手研究者の人材育成や女性研究者の上位職への登用に関する具体的な仕組みや共同利用・共同研究の受入数は必ずしも十分とは言えない。</p> <p>今後は、優れた若手研究者や女性研究者のステップアップのための仕組み作りや共同利用・共同研究の受入数の更なる増加に向けた方策の具体的な検討を行うことが期待される。</p>

通し番号	76
共同利用・共同研究拠点名	グローバル共生に向けた東南アジア地域研究の国際共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(東南アジア地域研究研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>東南アジアを中心とした文理融合的な地域研究の中核的研究拠点として、東南アジア諸国との人的交流や共同研究に取り組み、人文・社会科学を中心としつつ他分野でも研究成果を挙げるとともに、様々な研究の資源を提供するなど、関連コミュニティへの一定の貢献を果たすとともに、若手研究者に研究を促す取組を行い研究成果の創出に繋げていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、2 拠点を統合した相乗効果や文理融合的な学術研究の推進がどのように成果につながっているのかがやや明確でない。今後は、統合した効果として期待された情報分野などを取り入れた人文・社会科学以外の学問分野との共同研究を更に進め、異分野融合の名にふさわしい新しい学問体系の創造に向けた方策を具体的に検討し論文発表等成果の創出に努めることがより一層求められる。</p>

通し番号	77
共同利用・共同研究拠点名	生体医歯工学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京科学大学(総合研究院生体材料工学研究所【中核施設】)、 東京科学大学(総合研究院未来産業技術研究所)、 静岡大学(電子工学研究所)、 広島大学(半導体産業技術研究所)
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	<p>医療工学の構築、デバイス・技術開発と実装化に向けた医歯工連携型の中核的研究拠点として、各研究施設としての強み・特色を生かしつつ拠点ネットワーク内で密接に連携するとともに、異分野連携の独創的な研究が展開されており、多くの研究業績を残しつつ、共同研究数が多く、応募数や採択数が年々増加しており、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>一方で、海外との連携に関する取組が限定的であるとともに、研究業績に対するインパクトのある論文については必ずしも十分とは言えない。</p> <p>今後は、若手研究者育成のために海外からの受け入れについても積極的に実施するとともに、独創的な共同研究成果を優れた国際的な学術誌に掲載することが期待される。</p>

通し番号	78
共同利用・共同研究拠点名	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	筑波大学(放射線・アイソトープ地球システム研究センター【中核施設】)、 弘前大学(被ばく医療総合研究所)、 福島大学(環境放射能研究所)、 日本原子力研究開発機構(廃炉環境国際共同研究センター【連携施設】)、 国立環境研究所(福島地域協働研究拠点【連携施設】)、 環境科学技術研究所【連携施設】
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	放射線環境動態・影響評価に関する6施設による連携ネットワーク型の中核的研究拠点として、分野融合型の研究に取り組むとともに、ネットワーク協働によるデータやサンプルのアーカイブ化など、様々な共同利用・共同研究活動支援がなされ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。 一方で、共同利用・共同研究活動への支援等個々の組織による活動や成果に差が見られる。 今後は、ネットワークを構成する各研究施設の特徴を生かしながらネットワーク型拠点として全体の成果を向上させる連携した取組を検討し、拠点の活動を活発化させるとともに、国際的な観点からの人的交流を進めることが期待される。

## 4. 審議経過

### (1) 共同利用・共同研究拠点等に関する作業部会(第12期)の審議経過

#### ○作業部会第1回 令和5年5月24日(水)【WEB会議・非公開】

- ・議事運営について
- ・第12期における専門委員会の設置について
- ・共同利用・共同研究拠点制度について
- ・第12期における作業部会の調査審議事項について

#### ○作業部会第2回 令和5年9月25日(月)【WEB会議・非公開】

- ・国立大学の共同利用・共同研究拠点等の新規認定・中間評価
- ・公立大学の共同利用・共同研究拠点等の動向

#### ○作業部会第3回 令和5年10月30日(月)【WEB会議・非公開】

- ・国立大学の共同利用・共同研究拠点等の中間評価・新規認定
- ・公立大学の共同利用・共同研究拠点等の新規認定の方向性と中間評価結果

#### ○作業部会第4回 令和5年11月22日(水)【WEB会議・非公開】

- ・国立大学の共同利用・共同研究拠点等の中間評価・新規認定
- ・公立大学の共同利用・共同研究拠点等の新規認定

#### ○作業部会第5回 令和6年3月18日(月)【WEB会議・非公開】

- ・書面審査の進め方及び担当委員について
- ・評価意見書作成候補者について
- ・公立大学における共同利用・共同研究拠点の状況について

#### ◇令和6年3月26日(火)～令和6年4月23日(火)

各委員による書面評価の実施

#### ◇令和6年4月2日(火)～令和6年5月12日(日)

各評価意見書による評価意見書の作成

#### ○作業部会第6回 令和6年5月22日(水)～5月29日(水)【書面審議・非公開】

- ・令和6年度公立大学における共同利用・共同研究拠点の中間評価要項について

**○各専門委員会第1回 令和6年5月中旬～5月下旬【WEB審議・非公開】**

・議事運営等について

・中間評価及び新規認定について

5月13日(月)	理工学系(共同研究型)専門委員会
5月17日(金)	医学・生物学系(医学系)専門委員会
5月20日(月)	医学・生物学系(生物学系)専門委員会
5月22日(水)	異分野融合系専門委員会
5月24日(金)	理工学系(大型設備利用型)専門委員会
5月27日(月)	人文・社会科学系専門委員会

**◇令和6年5月27日以降、ヒアリング評価の実施日等に応じて随時**

各大学においてヒアリングに当たっての説明資料の作成・提出

**○各専門委員会第2回 令和6年6月上旬～6月下旬【WEB審議・非公開】**

・共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の中間評価及び新規認定について

6月10日(月)	理工学系(共同研究型)専門委員会
6月13日(木)	医学・生物学系(医学系)専門委員会
6月17日(月)	異分野融合系専門委員会
6月18日(火)	医学・生物学系(生物学系)専門委員会
6月21日(金)	人文・社会科学系専門委員会
6月24日(月)	理工学系(大型設備利用型)専門委員会

**○作業部会第7回 令和6年7月4日(木)【WEB審議・非公開】**

・共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の中間評価及び新規認定について

**◇令和6年10月4日(金)～10月10日(木)**

文部科学省から各大学に対して評価内容の事実確認の実施

**○作業部会第8回 令和6年10月17日(木)【WEB会議・非公開】**

・共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の中間評価及び新規認定について

・公私立大学における共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の期末評価について

**◇令和6年10月31日(木)**

文部科学大臣認定等の通知を大学へ発出